

2023年3月29日(水) — 30日(木)

## 日光街道つまみ歩き (その4)

### 野沢(宇都宮市) — 今市

今回のハイライトは丁度桜の季節だったので初日を中心に満開の桜を満喫したこと、そして2日目は数キロメートルに及ぶ日光街道の杉並木を存分に楽しんだことの2点である。

#### Day 1 野沢—大沢宿 3月29日晴時々曇り(夕方はかなり寒かった)

6時前に起き6時36分の横須賀線で東京へ、更に7時12分の東北新幹線で8時に宇都宮着、8時半前の関東バスで9時に「とちぎ男女共同参画センター」着、ここから歩き始める。既述の通り昨年11月の末に宇都宮から1泊で今市を目指して歩き始めたが、このバス停の少し先で幸子が転倒・骨折し、その直後の手術の為ブラ歩きを中断していた(この点については昨年11月27日付け「日光街道つまみ歩きその3」参照)。この為まずは前回転倒した場所の手前までバスで行き、そこから前回の続きを始めたものである。歩き始めて短時間で前回転倒した場所(宇都宮市野沢の弁天橋付近)に達し、その際大変お世話になった方のご実家でその節のお礼を申し上げようとしたが、留守だったのでそれが叶わなかったのは残念な次第だった。

歩き始めて45分で高谷林の一里に差し掛かる。ここは江戸から29里の場所だ。ここを過ぎてすぐに東北自動車道の下を潜る。10時54分下徳次郎のバス停を通過。この少し手前が江戸時代の徳治郎宿の江戸口(南口)だったようだ。この辺り一帯は桜が満開で美しい。11時18分、中徳次郎バス停、同39分参道口に樹齢700年といわれる夫婦榎を配した智賀都神社に至る。本殿への参道も雰囲気がある。ここに一礼して歩き続けて六本杉に至ると老人ホームと同じ建物にカフェが併設されており、そこでこの辺りの地名からとった六本杉コーヒーを飲ますとあったのでここでランチ。サラダは新鮮、コーヒーも美味しかった。この辺りの日光街道は春爛漫である(写真1)。食後智賀都神社の裏手にある二宮尊徳設計による堰を見ようと少し道をそれたが、案内板の表示が劣化していて全く読めず、それほど広くはない灌漑用水路を見ただけで、肝心の二宮堰は突き止めることが出来なかった。帰宅後インターネットで調べると二宮尊徳及びその後継者は江戸時代後期に水不足で苦しんでいた徳次郎一帯の地区のために、宝木用水を設けたが、この用水の取水堰が二宮堰と呼ばれているらしい。尚、二宮尊徳は小田原藩の人だが、藩主の分家の下野国の再興のためここ(栃木県)に移住、ここでの30年の最後の仕事が二宮堰だったようで、本人はこの完成前の1856年に没している。13時30分上徳次郎バス停通過。13時47分に石那田の一里塚に至る。ここは日本橋から30里だ。

徳次郎に限らないが今回歩いた日光街道は 2 車線の車道の両側の歩道が一段と高く設計され、そこに杉・松・桜などが植えられ美観の観点から楽しい。勿論場所により狭い側溝の上を歩かざるを得ないところも多く、実際幸子は前回こういうところで靴が引っかかって転んで骨折までもした危険な場所もかなりある点も、指摘しておかなければならないのは残念なことである。

3 時 20 分、遂に宇都宮市から日光市に入った。ランチ以降ここまで全く店もコンビニもない。4 時ごろ日光街道から少し左に逸れた国道上にファミリーマートを見つけたのでここでやっとコーヒー休憩。本日はここまでとした。ここから JR の下野大沢駅までの距離を聞くと、徒歩でおよそ 30 分とのこと。しかも時刻表を見ると 1 時間に一本しかなく、次は 5 時半だ。他方バスで宇都宮に戻るのならすぐ側にバス停がありこれに間に合うと言うので慌ててコンビニを飛び出してようやくバスに乗り 1 時間後に宇都宮駅に帰りつきリッチモンドホテルにチェックインし、その後街に出て名物の餃子を食べて部屋で寛いだ次第。宇都宮に帰ると路面が濡れている。ホテルで聞くと午後 3 時毎猛烈な雷雨があったそうだ。我々はラッキーだった。

本日の歩数は自宅からの累計で 34700 歩。日光街道の歩行距離は 17km 程度と思われる。

## **Day 2 3 月 30 日 (木) 大沢宿—今市宿 曇り時々晴 夕方はやや肌寒い**

今日は 1 日中日光街道の杉並木の精気を満身に浴びて歩き大変満足した 1 日であった。

7 時起床。部屋で簡単な朝食後 8 時 45 分のバスで昨日の歩行の終了地点の大沢宿に向かい 9 時 40 分から歩行開始。日光街道はここで昨日立ち寄ったコンビニがある自動車道を右に外れて杉並木となる。入り口に松平正綱が杉並木を寄進したとの並木寄進碑がある。高さが建物で言うと 7 階程度まで達するような杉の巨木が両側に聳える中を歩くのは格別なものである (写真 2)。このあとも含めてこの日は杉並木の中をほぼ 8km ほど歩く (日光の杉並木は日光街道以外も含めて 36km と世界最長でギネスブックにも登録済みとのこと)。

11 時 48 分下森友バス停を過ぎたところで浄土宗の来迎寺に立ち寄る。16 世紀 (1517 年) 創建のお寺で、参道に如意輪観音像十九夜燈が四基並んでいる。下森友から上森友迄約 500 メートルは並木のない道を歩くが、そこから今市市街地直前までは再度杉並木で、しかもそのうち大部分は並木保護のため自動車通行止めとなっており、道の真ん中を全く人に会うことなくゆっくりと森林浴を楽しみながら歩いた。しかしよく見ると杉の巨木も大変傷んでおり、自動車通行止めは当然と思われる。杉並木の入り口と出口には特別保護地域の表示がある。地元でもそれだけ杉並木の保存に力を入れていることが分かる。

12 時半、杉並木の道を歩いていると右の土手の上にぽっかりと空洞の出来た杉の巨木を見つけ、幸子が側道をよじ登ってその中に入って写真を撮った (写真 3)。ここは七本桜の一

里塚の北側で、杉の根元に空洞があることから俗に「並木ホテル」と呼ばれているようだ。ここは日本橋から 33 里の場所で、塚は特別史跡、杉は特別天然記念物。ここまで全く店がないので、今朝ホテルのそばで購入して魔法瓶に入れた珈琲とポカリスエット、それと自宅の近所の珈琲屋で買ったナッツのクッキーだけで歩いてきたので大分お腹もすき、疲労もたまって歩速も落ちてきていた。並木ホテルから 250m ほど歩いた丁度その時に並行する一般道上に「七本桜カフェ」を見つけて飛び込み味噌田楽とクリームあんみつで何とか糊口をしのいだ。実はこの近くには「並木ホテル」以外に杉と桜が一体となった「桜杉」と言う見所があるはずだが、我々はうっかりしてこれを見落としした。そこでこのカフェの店員に改めて所在場所を確認の上元来た道を 500m ほど戻って漸く発見した（写真 4）。これを発見できなかったのは、この季節にもし桜の木であれば当然満開の筈だとの先入観があったからだ。先のカフェの女店員によると桜杉のうち桜の方は年々弱ってきて花も以前ほど咲かなくなったとのことだったが、実際に見ても花はほとんど無かった。この木は恰も一本の木のように見えるが、良く見ると桜と杉が抱き合ったような格好で上に延びており、それぞれ別の木である。

ここから再度逆行して再度カフェを過ぎたところで杉並木と一般道が合流し、(日光市の)今市の市街地である。その場所に運良く「なみきそば」があったので 14 時 47 分にここに入って二人で鍋焼きうどんと天ざるを食する。大変おいしい。ここから数百メートルのところに大学時代の同級生(渡邊護さん)の造り酒屋があるので訪ねてみようと思って蕎麦屋で聞いてみると「先代ですか」と訊かれる。確かに我々の世代で現役はいないだろうから先代だと言うと言ったところ、その方は現在は会長で、今は息子さんが社長と教えてくれた。渡邊さんは 1842 年(天保十三年)創業で「日光誉」で有名な渡邊佐平商店の現会長で、この店は持参した日光街道歩きの参考書にも街道沿いの有名店として大きく場所が表示されている。15 時 5 分頃ここを訪ねると本人は留守で初対面の奥様とお話しし、その間に本人と電話がつながり暫時話をする。聞いてみると本人は町の名士としてお寺の役員をしており、そのお寺が経営する幼稚園の関係の会議に出ていて残念ながら外せないとのこと、こちらでも突然の訪問で事情はよく分かるので、またどこかで再会ということにした。酒造りは冬の間とのことで今は時期ではないとは言うものの、店の敷地には大型バスが止まり、外国人観光客が大挙して押し寄せていた。店は繁盛しているようで結構なことだ。友人にかわり慶應大学経済学部卒の立派なご長男(社長)から挨拶を受けた。

JR 今市駅から 4 時 26 分の在来線で宇都宮まで行き、そこから新幹線で帰京したが、驚いたことに今市駅で電車に乗ると、3 両しかない電車の座席は日光観光から帰りの外国人団体客で満席だったことだ。また、宇都宮からの新幹線の自由席にもその外国人達が乗ってきた。我々は離れてはいたが辛うじて座席を確保できたが、宇都宮から乗車したほとんどの乗客は先の外国人を含めて座れないという状況だった。今後インバウンドの旅行者客が増加する

と国内旅行もさぞ混み合うのではと思った瞬間である。

何はともあれ、夕方帰宅しての二人の感想は「行って良かった」というものである。街道歩きは単にお金を払って他人にスケジュールを任せて旅行に行くのと違って、一步一步あるくことで地元の人と文化に触れてそのことを楽しむという点にある。この面白さを一度味わってしまうとやめられない。我々もかなりの年齢になってきたが、歩ける範囲で無理をせずにこれを続けたいと思う。この日の歩数は 24475 歩、日光街道歩行距離は約 8km。

2 日間の総歩数は 59175 歩、日光街道歩行距離は 25km、総費用は 4.6 万円である。

今回は時間を見つけて今市から日光街道の終点まで歩き、その後「金谷ホテル」に 2 泊程度し、更に時間があれば鬼怒川辺りまで足を伸ばしてみようと二人で話し合っている。

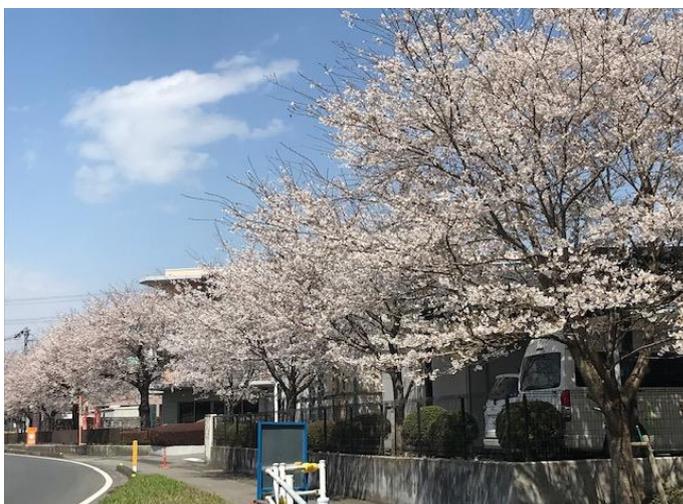


写真 1 六本杉辺りの満開の桜



写真 2 8km 以上も続く杉並木



写真 3 日光街道杉並木の「並木ホテル」



写真 4 日光街道今市近くの桜杉